

放射線部

Clinical Radiology Service Unit



診療各科に信頼される 中央放射線部門

放射線部業務は以下の4部門に分かれる。どの領域も現代の高度な医療水準を維持するために欠かせない重要なものである。診療業務は主に中央診療棟・外来診療棟を中心に、一部RI診療棟に分散して行われている。

- ①MD-CT(multidetector-CT)、3-T、MRIなどの高精度断層画像、デジタル撮影などの画像提供と画像診断レポート作成を行う画像診断部門
- ②定位放射線照射、強度変調放射線治療(IMRT)など最先端の高度照射を行う放射線治療部門
- ③FDG-PET、PET/CT、SPECTを用いて、主に腫瘍診断を行う核医学診療部門
- ④画像ガイド下に低侵襲治療を行うIVR部門

代表的診療対象疾患

すべての疾患が対象となり得る。

業務内容の特徴と実績

4部門で業務を推進

①画像診断部門

X線直接撮影・間接撮影、消化管造影検査、X線透視、尿路・婦人科撮影、X線CT、MRIなどの画像診断業務は、約800件/日に達している。これらのうちX線CT、MRI、消化管造影検査は、放射線部医師と放射線診断科医師が中心となり、放射線部技師、看護師との協力体制のもと施行されている。現代の画像診断において中心的役割を果たすCT、MRIなどの断層画像は年々施行件数が増加しており、MD-CTは現在4台がフル稼働している。2014年度における1日CT検査件数は平均158件を達成し、全国の国立大学法人附属病院のトップスリーに入る。また、MRIは最新の3-T、MRI装置4台と1.5-T装置1台の計5台体制で稼働している。3-T、MRIの導入後、より精密な画像が得られるようになった。2014年度のMRI総検査件数は、13,538件、56件/日を達成。

②放射線治療

放射線治療科医師、医学物理士、放射線部技師、放射線部看護師との協力体制のもと放射線治療が行われている。2014年度の総放射線治療件数は1,160件であり、うち高精度治療としては定位照射118件(脳60件、体幹部58件、うち追尾2件)、強度変調放射線治療182件(前立腺がん85件、頭頸部がん38件、その他59件)であり、放射線治療件数は全国有

数の実績を示している。

③核医学検査

複合型PET/CT装置2台、SPECT装置3台(うちSPECT/CT装置1台)体制で稼働している。PET/CT、SPECT/CTは異種の画像診断装置が一体となった複合機であり、CTによる形態情報と、PETやSPECTによる代謝情報を一度の検査、同一体位で得られる。2014年度核医学検査総件数は6,272件、26件/日を達成。

④IVR部門

血管造影・IVRは中央診療棟にて行われている。頭部血管造影用のbiplane DSA装置、心カテーテル用のシネアンギオ装置、腹部DSA装置など計4台が終日稼働。2014年度の血管造影・IVR施行件数は3,311件を達成し、全国の国立大学法人附属病院でトップクラスである。さらに高技術の低侵襲治療の発展が期待される。腹部・胸部領域の血管造影・経動脈性塞栓術、A-port留置術、PTCD、胆管ステント挿入、門脈・肝静脈ステント挿入、肝細胞がんに対する腫瘍焼灼術、肝移植後の合併症に対するIVRは放射線部、画像診断科医師が担当している。脳血管造影、neuro-interventionは脳外科医が担当、心カテーテル検査、coronary interventionは循環器内科医・CCU医師が担当、神経ブロックは麻酔科が担当しているので、各診療科のページを参照されたい。

高度先進医療・臨床研究の取り組み

高度先進医療・臨床研究は、放射線治療科(39ページ)、放射線診断科(40ページ)を参照されたい。